

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成17年2月10日(2005.2.10)

【公表番号】特表2000-512147(P2000-512147A)

【公表日】平成12年9月19日(2000.9.19)

【出願番号】特願平10-501605

【国際特許分類第7版】

C 1 2 N 15/09

C 1 2 N 1/19

C 1 2 N 5/10

C 1 2 N 9/12

C 1 2 Q 1/68

//(C 1 2 N 9/12

C 1 2 R 1:91)

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

C 1 2 N 1/19

C 1 2 N 9/12

C 1 2 Q 1/68 A

C 1 2 N 5/00 B

C 1 2 N 9/12

C 1 2 R 1:91

【手続補正書】

【提出日】平成16年6月8日(2004.6.8)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手 続 補 正 書



平成16年6月8日

特許庁長官 殿

1. 事件の表示

平成10年特許願第501605号

2. 補正をする者

名 称 イミュネックス・コーポレーション

3. 代 理 人

住 所 東京都千代田区大手町二丁目2番1号 新大手町ビル206区
ユアサハラ法律特許事務所

電 話 3270-6641~6

氏 名 (8970) 弁理士 社 本 一 夫



4. 補正対象書類名

請求の範囲

5. 補正対象項目名

請求の範囲

6. 補正の内容

別紙の通り

方 式
審 査

(別紙)

請求の範囲を次のとおり補正する。

『1. IL-1/TNF- α 活性化キナーゼ (ITAK) またはその変異体をコードする単離核酸分子であって、

(a) ヌクレオチド番号1からヌクレオチド番号2940までの配列番号1のヌクレオチド配列、またはそれに相補的な配列；

(b) 中程度に厳密な条件下で (a) の核酸分子にハイブリダイズでき、そして ITAK をコードする核酸分子、またはその相補体；および、

(c) (a) または (b) の核酸分子に関して、遺伝暗号の結果、縮重しており、そして ITAK をコードする核酸分子、またはその相補体；

からなる群から選択された配列を含む、請求項1に記載の単離核酸分子。

2. 前記分子がアミノ酸番号1からアミノ酸番号979までの配列番号2のアミノ酸配列を有するタンパク質をコードする、請求項1に記載の単離核酸分子。

3. 前記分子がヒトIL-1/TNF- α 活性化キナーゼ (ITAK) をコードする、請求項1または2に記載の単離核酸分子。

4. 請求項1ないし4のいずれか1項に記載の核酸分子を含む組換えベクター。

5. 請求項1ないし4のいずれか1項に記載の核酸分子に、機能可能であるように連結したプロモーターを含む組換え発現ベクター。

6. 請求項4または5に記載のベクターを含む宿主細胞。

7. 単離IL-1/TNF- α 活性化キナーゼ (ITAK)、またはその変異体。

8. アミノ酸番号1からアミノ酸番号979までの配列番号2のアミノ酸配列を有する、請求項7に記載の単離IL-1/TNF- α 活性化キナーゼ (ITAK)。

9. IL-1/TNF- α 活性化キナーゼ (ITAK) をコードする核酸配列に特異的にハイブリダイズできる少なくとも15ヌクレオチド長の核酸プローブ、またはその相補配列。

10. IL-1/TNF- α 活性化キナーゼ (ITAK) のキナーゼ活性を調節する剤をスクリーニングする方法であって：

(a) 候補剤を生物学的に活性があるITAKと、候補剤が前記ITAKのキナーゼ活性を調節する条件下で十分な時間接触させ；そして

(b) ITAKキナーゼ活性を調節する候補剤の能力を測定する；
ことを含む前記方法。

1 1. さらに当該候補剤を単離することを含む、請求項10に記載の方法。

1 2. 選択された剤がIL-1/TNF- α 活性化キナーゼ (ITAK) アゴニストであるかどうか決定する方法であって：

(a) 選択された剤を未刺激のITAK反応経路に、経路を刺激する条件下で十分な時間曝露し；そして

(b) 反応経路の刺激を検出し、そしてそこからITAKアゴニストの存在を決定する；

ことを含む前記方法。

1 3. 選択された剤がIL-1/TNF- α 活性化キナーゼ (ITAK) アゴニストであるかどうか決定する方法であって：

(a) ITAK反応経路のITAKキナーゼ活性を測定し；

(b) 選択された剤を測定されたITAK反応経路に曝露し；そして

(c) 反応経路中の、増加したITAKキナーゼ活性を検出する；

ことを含む前記方法。

1 4. 選択された剤がIL-1/TNF- α 活性化キナーゼ (ITAK) アンタゴニストであるかどうか決定する方法であって：

(a) 選択された剤をITAKアゴニストの存在下で、ITAK反応経路に、経路の刺激を減少させる条件下で十分な時間曝露し；そして

(b) ITAKアゴニストのみによる反応経路の刺激と比較して反応経路の刺激の減少を検出し、そしてそこからITAKアンタゴニストの存在を決定する；

ことを含む前記方法。

1 5. ITAKアゴニスト。

1 6. ITAKアンタゴニスト。

1 7. 哺乳動物 β -カゼインでなく、そして少なくとも40 nmolリン酸/mgタンパク質/分の速度で単離ITAKによりリン酸化されうる、ITAKリン酸化基質ペプ

チド受容体配列。

18. IL-1/TNF- α 活性化キナーゼ (ITAK) 活性を検出する方法であって：

(a) ITAKを哺乳動物 β -カゼインでないITAKリン酸化基質ペプチド受容体配列に、ATPの存在下で、ATP供与体からITAKリン酸化基質ペプチド受容体配列に γ -リン酸基が輸送される条件下で十分な時間接触させ；そして

(b) ITAKリン酸化基質ペプチド受容体配列により取り込まれたリン酸を測定する；

ことを含む前記方法。

19. 当該ITAKリン酸化基質ペプチド受容体配列がアミノ酸配列：

Arg-Arg-Arg-His-Leu-Pro-Pro-Leu-Leu-Leu-Gln-Ser-Trp-Met-His-Gln-Pro-His-Gln (配列番号3)

を有する、請求項18に記載の方法。

20. ATPが γ -(32 P)-ATPである請求項18または19に記載の方法。

21. アミノ酸配列：

Arg-Arg-Arg-His-Leu-Pro-Pro-Leu-Leu-Leu-Gln-Ser-Trp-Met-His-Gln-Pro-His-Gln (配列番号3)

を含むITAKリン酸化基質ペプチド受容体配列。

22. 試料中のITAKを検定するキットであって：

哺乳動物 β -カゼインでなく、そして少なくとも40 nmolリン酸/mgタンパク質/分の速度で単離ITAKによりリン酸化されうる、ITAKリン酸化基質ペプチド受容体配列；および

ITAKリン酸化基質ペプチド受容体配列に取り込まれたリン酸を測定する手段；

を含む前記キット。

23. ITAKと関与する遺伝子産物を同定する方法であって；

(a) ITAKポリペプチドをコードする核酸配列を、ITAK配列が、宿主細胞の生存率に本質的なタンパク質の機能的に不完全な第一の部分を含む融合タンパク質の一部として発現されるように、第一の発現ベクターに導入し；

(b) ITAKと関与する複数の候補遺伝子産物をコードする核酸配列を、候補遺伝子産物がいずれも、宿主細胞の生存率に本質的な当該タンパク質の機能的に不完全な第二の部分を含む融合タンパク質の一部として発現されるように、第二の発現ベクターに導入し；

(c) 第一および第二の発現ベクターを、宿主細胞の生存が、第一および第二の機能的に不完全な部分双方が再構成され、機能的に完全なタンパク質になることに依存するような条件下で、そして十分な時間をかけて導入し；そして

(d) 生存宿主細胞を同定し、そしてそこから第二の発現ベクター中のITAKと関与する候補遺伝子産物をコードする核酸配列を決定する；
ことを含む方法。

24. 宿主細胞が酵母宿主細胞である、請求項23に記載の方法。

25. 酵母が酵母株Y190であるような請求項24に記載の方法。

26. 宿主細胞の生存率に本質的なタンパク質がモジュラー酵母転写因子GAL4である、請求項24または25に記載の方法。

27. 宿主細胞の生存率に本質的なタンパク質の機能的に不完全な第一の部分が、モジュラー酵母転写因子GAL4のN末端147アミノ酸を含む、請求項24または25に記載の方法。

28. 宿主細胞の生存率に本質的なタンパク質の機能的に不完全な第二の部分が、モジュラー酵母転写因子GAL4のC末端114アミノ酸を含む、請求項24ないし27のいずれか1項に記載の方法。

29. 宿主細胞の生存率に本質的なタンパク質の機能的に不完全な第一の部分が、モジュラー酵母転写因子のDNA結合領域を含む、請求項23ないし26のいずれか1項に記載の方法。

30. 宿主細胞の生存率に本質的なタンパク質の機能的に不完全な第二の部分が、モジュラー酵母転写因子の転写活性化領域を含む、請求項23ないし25のいずれか1項に記載の方法。